



# 並木中等進路だより

NO.3

JULY 10, 2013

後期生

茨城県立並木中等教育学校学習進路部

## 並木高校27回生合格体験記より

3年生～6年生に今年卒業した先輩たちのうち16名が並木中等生のために書いてくれた「合格体験記」を配付しました。それぞれの考え方や方法は多少違うところはあるものの、合格のためのエッセンスと後輩たちへの熱い思いが詰まった力作ばかりです。先輩たちも皆さんと同じように部活との両立や受験勉強に悩み、それを乗り越えて見事栄冠をつかんできました。そんなメッセージの一部を載せておきますので、詳しくは体験記を是非熟読して自分のモチベーションに変えて下さい。

その日の計画は勉強机の横の壁に貼りいつでも目に入るようにして勉強した。

きちんと自分を持って戦うことが重要。

一度よいスコアが出ると自分の中にプライドが生まれてくる。

普段の空き時間を有効活用し、基礎の反復をしっかりすることが点数アップの秘訣。

学校の授業が100%できれば大体の大学は合格できる。

どんなに辛くても、辛いのはあなただけではありません。

普段から読書、ラジオ英語講座を毎日欠かさず聞いていた。

部活引退、ここで受験モードに切り替えられるかどうかで明暗が分かれる。

学校の授業や課題をしっかりとやることから始めてください。

目標があるかどうかでモチベーションが変わってきます。

受験は最後まで努力した人が合格します。

授業一つ一つをきちんと聞くことは、一番の勉強方法。

日頃からニュースをテレビで見たり新聞を読んだりすることも大切。

朝早く学校に行き、放課後Brightホールで7時まで勉強したら、家に帰って少し勉強して寝る。

受験勉強の私の鉄則は、並木高校のフル活用でした。

先生方をたくさん利用することが、合格への近道だと思います。

後悔したことを次にどう活かすかによって、結果が変わってくる。

まず初めに、基本的な生活習慣を整えることです。

一気にやる10時間より、コツコツ習慣づけた1時間というのはだいぶ効果がある。

私はBrightホールが開いている時に行かなかったことは3日もない。

受験は諦めた人から負けていきます。

不安や焦りがあるから自ずと勝手に勉強する。集中するから少ない時間で密度の濃い勉強ができる。

すき間時間。朝早く学校に来て30分、授業が終わった後の10分、昼休みの20分、電車の中の20分。

授業を安易に休んでしまったりする人は受験をする意味自体がない。宿題を出さない人にも言える。

自分の勉強方法を見直して改める。

大切なのは冷静に焦ること。

# 2013年度入試のまとめと今後の予想

並木高校27回生が受検した2013年度入試を総括するとキーワードは次の4つ。

**センター志願者数の増加**： 18歳人口の増加のため昨年度より約2万人増加。来年度は18歳人口が約5万人減少するため、センター志願者数も減ると予想される。

**センター平均点大幅ダウン**： 主要教科である数学・国語の平均点が大幅に下がり、受験生の心理等に大きく影響を与えた。平均点がダウンした時こそ強気になれるかがポイント。またアップした時は慎重に。

**国公立志願者数やや減少**： センター平均点ダウンの影響で難関校を中心に志願者数が減少。おかげで東大・文一では13年ぶりに第1段階選抜(足きり)がないという結果に。難関である医学部もまた減少。

**文低理高**： 系統別志願者数では、文系は法学部を中心に減少傾向。理系はここ数年志願者が増え続けている。しかし今後のアベノミクス次第では経済学部への人気回復が見られるかもしれない。

## センター試験の主な特徴 【進路委員コーナー】

今回の進路委員コーナーは、6年B組の岩波ふゆみさんと田中梨緒さんが「センター試験の主な特徴」について報告してくれます。みなさんも是非参考に！

センター試験についてどのくらい知っていますか？今回は、多くの皆さんが受けることになるセンター試験の特徴について、毎月各クラスに配布されている蛍雪時代を参考にして、まとめてみました。

### 1、各科目の履修内容の全範囲から出題

どの科目も全範囲からまんべんなく問われ、特定分野の出題に偏ることがないようになっている。だから、学習が不十分な分野があると、必ず失点につながる。対策の事前準備として、穴をつくらないように教科書などで科目の全体像をつかんでおこう。

### 2、幅広い基礎知識と基本の理解度を問う

センターの出題目的は「基本的な学習の達成度の判定」と定義される。教科書レベルが基準だが、細かな知識まで問われ、理解の甘さを見抜くような問い方をしてくる。きめ細かい学習が必須。

### 3、制限時間の割に問題量・数が多い

センター高得点を阻む壁となるのが、試験時間に対する問題のボリュームと設問数の多さだ。特に回答のスピードや時間配分の戦略が必要だ。

### 4、慎重な吟味が必要な紛らわしい選択肢

センターでは、正解・不正解を紛らわしくした選択肢が多い。不正解のパターンを知るのも対策になるが、選択肢に騙されない本物の実力を身につけよう。

### 5、問題形式は年度ごとに大きく変化しない

センターは各年度で基本構成や設問の種類など、問題形式があまり変化しない。出題傾向を把握し、過去問演習で形式に慣れよう。(2015年は一部で大きな変化があるかも)

### 6、平均得点率6割が問題の難易度の指標

問題の難易レベルは受験者の平均点が6割程度の、得点率になるように設定されている。だから、人より2割増しの努力をして、初めて目標が達成できると心得ておこう！